

# 安全データシート

整理番号 【462-4】

制定日 2012/01/20

改訂日 2018/12/21

## 1. 製品および会社情報

### 製品

製品名 パワーquick ジェット洗浄機用洗浄剤アルカリ性

### 供給者情報

会社 サラヤ株式会社

住所 大阪府大阪市東住吉区湯里2-2-8

担当部門 営業本部

電話番号 06-6797-2525

緊急時連絡番号 06-6705-1013

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類：

#### 健康に対する有害性

皮膚腐食性・刺激性 : 区分1A

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分1

呼吸器感作性 : 区分1

皮膚感作性 : 区分1

特定標的臓器毒性（単回暴露） : 区分2

特定標的臓器毒性（反復暴露） : 区分2

#### 環境に対する有害性

水生環境有害性（急性） : 区分3

### GHSのラベル要素

絵表示又はシンボル：腐食性、健康有害性

注意喚起語：危険

危険有害性情報：重篤な皮膚の薬傷、重篤な眼の損傷、

吸引するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ  
アレルギー性皮膚炎反応を起こすおそれ

臓器の障害のおそれ

長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ

水生生物に有害

注意書き：

#### 【安全対策】

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。  
換気が不十分な場合：呼吸用保護具を着用すること。  
取り扱い後はよく手、皮膚、喉を洗うこと。  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
この製品を使用する際に、飲食または喫煙をしないこと。  
環境への放出を避けること。

#### 【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。  
皮膚を多量の水で洗うこと。  
皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診断を受けること。  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。  
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
直ちに医師に連絡すること。  
呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。  
暴露または暴露の懸念がある場合：医師に連絡すること。  
気分が悪い時は、医師の診断を受けること。  
特別な処置が必要である（4. 応急措置を参考のこと）。  
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。  
次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。  
その後も洗浄を続けること。  
直ちに医師に連絡すること。

#### 【保管】

施錠して保管すること。

#### 【廃棄】

内容物、容器を自治体のルールに従い廃棄すること。

---

### 3. 組成および成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

成分：＜ラベル表示内容＞

水酸化カリウム， けい酸塩， カルボン酸塩

化学名または一般名：

2-アミノエタノール（CAS NO, 141-43-5） 1～3%含有

水酸化カリウム(CAS NO, 1310-58-3) 5%未満含有

---

## 4. 応急処置

### 皮膚についた場合：

直ちに多量の水で十分に洗い流す。液が付着した衣服や靴は直ちに脱ぐ。  
手当が遅れると炎症をおこす恐れがある。

### 眼に入った場合：

直ちに流水で15分以上洗い流す。その後、速やかに医師の診断を受けること。手当が遅れると失明する恐れがある。

### 飲み込んだ場合：

直ちに多量の水、牛乳や生卵を飲ませる（アレルギーの場合はこの限りでない）。無理には吐かせないで、速やかに医師の診断を受ける。

濃い液を多量に飲み込んだ場合、手当てが遅れると生命にかかわる場合がある。

### 最も重要な兆候および症状：

- ① タンパク質を分解する作用があり、付着したものを完全に除かない限り次第に組織の深部に及ぶ恐れがある。  
特に目に入ると結膜や角膜が侵され、視力の低下や失明することがある。
- ② 繰り返し接触していると皮膚表面の種々の組織を侵し、直接刺激性の皮膚炎又は慢性湿疹の症状がでる。
- ③ 誤って飲み込んだときには、口腔、喉、食道、胃などに炎症を起こす。

---

## 5. 火災時の措置

### 消火剤：

当該物質を巻き込んだ周辺の火災には適切な消火剤を使用する。

### 消火方法：

製品自身は不燃物。周辺火災に対して、容器を安全な場所に移動する。

移動不可能の場合には、容器および周辺に散水して冷却し、容器の破損を防ぐ。

---

## 6. 漏出時の措置

少量の場合は、多量の水を用いて希釈して洗い流す。

多量の場合は、土砂等に吸着させるかまたは、安全な場所に導いて多量の水をかけて洗い流す。

---

## 7. 取り扱いおよび保管上の注意

### 取り扱い：

- ① 作業時は必ず保護メガネおよびゴム手袋を着用する。

- ② キャップを開けるときの、液が飛び出す恐れがある。  
また、容器を移動するときはキャップをしっかり締める。  
緩んでいると、液が跳ねて目や皮膚につく恐れがある。
- ③ 他の容器に移し替えない。
- ④ 他の薬剤・洗浄剤等とは混ぜない。
- ⑤ 樹脂の種類やメッキ製品によっては、変化をきたす場合があるため、  
予め試験をしてから使用する。

#### 保管

##### 適切な保管条件：

- ① 幼児の手の届かないところに保管する。
- ② 倒れたり、こぼれたりすることのないような場所に保管する。

---

## 8. 暴露防止措置および保護措置

設備対策：情報なし

管理濃度：設定されていない。

許容濃度：設定されていない。

保護具：必ず保護メガネおよびゴム手袋を着用する。

---

## 9. 物理的および化学的性質

外観：無色～微黄色透明液体

臭い：わずかに原料臭

pH：1.4以上

比重：1.361（20℃）

---

## 10. 安定性および反応性

安定性：常温においては安定である。

危険有害性反応可能性：情報なし

---

## 11. 有害情報

急性毒性：区分外

皮膚腐食性/刺激性：

区分1A（重篤な薬傷・目の損傷）

眼に対する重篤な損傷/刺激性：区分1（重篤な目の損傷）

呼吸器感作性/皮膚感作性：区分1（吸引するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起

こすおそれ、

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ)

変異原性：区分外

発がん性：区分外

生殖毒性：区分外

特定標的臓器/全身毒性－単回暴露：区分2（臓器の障害のおそれ）

特定標的臓器/全身毒性－反復暴露：区分2（長期または反復暴露による臓器の障害のおそれ）

吸引性呼吸器有害性：分類できない

催奇形性：情報なし

代謝：情報なし

労働安全衛生法

通知対象物質（No. 21）2-アミノエタノール 2.5%含有

労働安全衛生法

通知対象物質（No. 316）水酸化カリウム 4.9%含有

---

## 12. 環境影響情報

生態毒性：情報なし

残留性・分解性：情報なし

生体蓄積性：情報なし

土壌中の移動性：情報なし

2-アミノエタノール（化学物質管理促進法

（P R T R法） 第一種指定化学物質 No. 20）2.5%含有

ノニルフェノール系非イオン界面活性剤を含め、環境庁が内分泌攪乱物質

（いわゆる環境ホルモン）と位置付けした 指定物質は一切配合していない。

---

## 13. 廃棄上の注意

「7. 取り扱いおよび保管上の注意」の項を参照のこと

残余廃棄物：

多量の水で希釈して処理する。あるいは、廃棄物業者に処理を依頼する。

使用済容器：

容器は残留物の有無を確かめ、水洗い後、自治体のルールに従い、廃棄する。

---

## 14. 輸送上の注意

「7. 取り扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

### 国際規制

国連分類：腐食性物質（クラス8、容器等級Ⅲ）

国連番号：1719

引火性液体に該当しない。

国内規制：情報なし

運搬する場合には、飛散、漏洩、流出、又は浸出を防ぐのに必要な措置を講じなければならない。

キャップのあるところを上にして積載する。

---

## 15. 適応法令

労働安全衛生法（安衛法）：

通知対象物質（No. 21）2-アミノエタノール 2.5%含有

通知対象物質（No. 316）水酸化カリウム 4.9%含有

化学物質管理促進法（PRT法）：該当する

---

## 16. その他の情報

### 参考文献

毒劇物基準関係通知集 薬務公報社

日本食品洗浄剤衛生協会 製品安全データシート 水酸化カリウム

GHS混合物判定ツール（経済産業省）

- ・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
  - ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
  - ・注意事項は通常の手続きを対象としたものですが、特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
  - ・すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。
-